

8/18
日曜

軽症者の湿布やビタミン剤

保険対象外や自己負担増

医療費抑制へ厚労省検討

厚生労働省は二十六日、同じような効果の市販薬で代替できる軽症者向けの湿布やビタミン剤、皮膚保湿剤などの薬を保険

り医療保険財政を圧迫しているとの指摘もあり、医療費抑制につなげる。

政府は、団塊の世代金が七十五歳以上の後期高齢者となり社会保障費が膨張する二〇一五年を見据え、給付と負担の見直しを検討。近く厚労省の諮問機関である中央社会保険医療協議会や社会保障審議会で議論を本格化させる。また、論を本格化させる。また、公的医療保険の対象外となり、自己負担を増やしたりする方向で検討に入った。病院を受診すれば一～三割の自己負担で済み、市販薬を買うより安くなることが多い。過剰な受診につながる。

百二十六億円。湿布や皮膚保湿剤など、どの薬を保険対象外とするかによって抑制額は変わってくる。

過去にも問題が指摘され、厚労省は治療目的ではないビタミン剤やうがい薬を保険対象外としたほか、医師が一回に処方できる薬の一割から二割に引き上げるなども実施された。しかし、病院を受診した際は、厚労省は治療目的ではない薬を買わざるを得ない状況になってしまった。

一方で、市販薬を購入する場合は、自己負担は一～三割で、残りは税金や保険料から賄われる。市販薬よりも手に入りやすいため安易な受診を招くとされる。健康保険組合連

合会の試算では、市販薬で代替可能な薬剤費は年一千一百二十六億円。湿布や皮膚保湿剤など、どの薬を保険対象外とするかによって抑制額は変わってくる。

過去にも問題が指摘され、厚労省は治療目的ではないビタミン剤やうがい薬を保険対象外としたほか、医師が一回に処方できる薬の一割から二割に引き上げるなども実施された。しかし、病院を受診した際は、厚労省は治療目的ではない薬を買わざるを得ない状況になってしまった。

一方で、市販薬を購入する場合は、自己負担は一～三割で、残りは税金や保険料から賄われる。市販薬よりも手に入りやすいため安易な受診を招くとされる。健康保険組合連

連法成立を目指す。

合会の試算では、市販薬で代替可能な薬剤費は年一千一百二十六億円。湿布や皮膚保湿剤など、どの薬を保険対象外とするかによって抑制額は変わってくる。

過去にも問題が指摘され、厚労省は治療目的ではないビタミン剤やうがい薬を保険対象外としたほか、医師が一回に処方できる薬の一割から二割に引き上げるなども実施された。しかし、病院を受診した際は、厚労省は治療目的ではない薬を買わざるを得ない状況になってしまった。

一方で、市販薬を購入する場合は、自己負担は一～三割で、残りは税金や保険料から賄われる。市販薬よりも手に入りやすいため安易な受診を招くとされる。健康保険組合連

連法成立を目指す。

医療費抑制に向けた主な論点

軽症者向けの薬について、保険対象外や自己負担引き上げ
75歳以上の窓口負担を1割から2割に引き上げ
受診時の定額負担導入
高齢者の所得や資産に応じた負担への見直し

公的医療保険財政への影響

